

# 全国草原再生ネットワーク ニュースレター

vol.3 (2010, Jul.)

## 全国草原再生ネットワークの総会が開催されました

去る6月9日(水)、環境パートナーシップオフィス(東京都渋谷区)において第4回総会を開催致しました。

総会が始まる前に草原シンポ・サミットの仕掛け人、山田朝夫氏(元・大分県久住町理事、現・愛知県安城市副市長)が会議の合間を縫って懐かしい顔を覗かせてくれました。「全国草原再生ネットワーク」は、第1回から第8回までの全国シンポ・サミットに携わった人々が、声を上げ、連帯して作り上げてきたものです。従って、第1回久住高原野焼きサミット・シンポがスタートでしたので13年振りに山田氏にお会いしたその日は感慨深いものとなりました。

総会は「草原を取り巻く状態が変化している。本会も事務局体制が変更になるなど変化の中にあるが、会員の皆様のご協力をいただきながら、邁進していきたい。」と、昨年からの野焼きの事故にも触れた会長の挨拶から始まりました。

昨年度は北広島での第8回全国草原サミット・シンポジウムの開催を後援・支援する大きな事業がありました。今年度は秋に開催予定の(財)阿蘇グリーンストック15周年記念シンポジウムや森林塾青水10周年ハ

の後援や講師派遣をはじめ、各地域で行われる草原再生に関する支援を行っていくことを確認しあいました。

また、今年3月東京都で行われた生態学会では草原に関する発表が多かったとの報告がありました。当草原文献リスト整備事業で収集・登録したデータへのアクセス数を見ると「今、草原がホットである」ということが伺えます。これを踏まえ、本年度は「草原データベースの整備」「全国草原サミットがもたらしたものの発行などを基本にした事業を行うこと」にしました。収集情報のHP一般公開はもちろん、ニュースレターの発送など紙媒体での伝達を行い、会員へのサービスと満足度を向上させることを申し合わせました。

なお、総会でのトピックスは次の通りです。



総会の様子

- ①事務局体制の変更と強化 事務局の住所を移動する。事務局を6人体制とする。
- ②事業年度を変更し毎年5月1日から翌年4月30日とする（2010年度の会計年度は2010年4月1日から2011年4月30日の13ヶ月とする。）
- ③潤沢な資金確保のため、寄付金集めに注力する。

（事務局：高橋泰子）



山田氏（右から2人目）を囲んで

## 各地からの報告

### 【みなかみ町上ノ原での野焼きについて】

みなかみ町上ノ原での野焼きは、4月24日（土）に予定しておりましたが、時ならぬ降雪に見舞われ、予備日として設定していた翌25日（日）に無事実施することができました。

4月の低温のためか例年より残雪が多く、小規模な実施範囲にとどまりましたが、当日は前

日とはうって変わった快晴・微風の下、朝日連峰を望みながら、森林塾青水・地元藤原地区有志・みなかみ町・利根沼田森林管理署合わせて約70名の参加を得て、和気藹々と実施されたことができました。

（浅川 潔：東京都在住・森林塾青水）



上の原での野焼き



残った雪を防火帯として利用

### 【秋吉台お花畑プロジェクトの報告】

6月20日、山口県秋吉台にて「お花畑プロジェクト1」を開催しました。山焼きの火が入りにくいため草丈が高くなり、開花する植物が減ってきた草原で草刈りを行い、秋の開花数を増やすという取り組みです。刈った草は地元農

家の畑でマルチ等に使用してもらい、その農産物は秋のお花畑の観察会で味わうことができます。

今年の草刈り場所は草丈がすでに1mを超えており、鎌を手にした参加者はかなり苦勞を



して草を刈り、大量の刈り草をトラックに積み込みました。休憩時には、草刈りは植物だけではなくチョウの保全にも効果があるという話を聞きました。お昼は地元の食材を使ったお弁当を味わい、午後からは野草を使った紙すきを体験し、野草の利用方法について考えました。

活動開始当初十数名だった参加者も、現在では定員の30名を上回るようになりました。草原に来て、見て、体験してもらうことが草原の保全につながると考え、今後も長く活動を続けていきます。

### 【おいしいお茶づくりに野草が貢献！】

2009年の夏、四国の塩塚高原を訪れました。愛媛県と徳島県の県境に位置し、現在も草原が残っています。訪問のメインは高原だったのですが、途上で興味深い場所を見つけました。吉野川の支流から、急な斜面を縫うように走る道が上がっていきます。その途上に集落が点在し、そこに茶畑が広がっていました。

茶畑を覗いてみると、足元にススキなどの野草がマルチ代わりに敷かれていました。細かく



(荒木陽子：山口県在住)

朽ちた野草は土と混ざり、良質の土となりました。地元の方に伺うと、お茶の業者さんから、定期的に草を敷くように指導があるそうです。良質のお茶を作るために野草が役立っているようです。さらに興味深いことに、必要な草は、茶畑や畑のすぐ脇の草地から採られています。茶畑、茅場、畑がモザイク状に組み合わせられ、その中にコエグロ（草小積）がたつ姿が印象的でした。  
(事務局)



## 草原をめぐる動き（2010年8月～10月）

- 8/1 “復活”ドリネ畑の周辺にお花畑づくり(場所：山口県秋吉台、連絡先：ほっとビレッジ美東 08396-2-2285) 秋吉台、連絡先：秋吉台少年自然の家 08396-2-0581・秋吉台エコミュージアム 08396-2-2622)
- 8/1 東お多福山草原保全・再生フォーラム「生き物豊かなススキ草原をふたたび」(場所：神戸大学瀧川記念学術交流会館、連絡先：神戸県民局県民室環境課) 9/26 草原の復元作業2～セイタカアワダチソウ駆除作業～(場所：山口県秋吉台、連絡先：秋吉台エコミュージアム 08396-2-2622)
- 8/7 千町原の夏草刈り(場所：広島県北広島町、連絡先：千町原草刈りボランティア事務局(高原の自然館内)) 10/23 森林塾青水 10周年記念シンポジウム(連絡先：森林塾青水)
- 9/20 秋吉台お花畑プロジェクト2(場所：山口県) 10/23-24 茅刈り講習会(場所：群馬県みなかみ町、連絡先：森林塾青水)

※上記以外の情報については、ホームページをご覧ください。ホームページに掲載するイベント情報もお待ちしております。

## 事務局からのお知らせ

### 【草原文献リストの整備が進んでいます】

総会の報告でもありました「草原文献リスト」の準備が進んでいます。草原再生ネットワークのホームページ(<http://www.sogen-net.jp/>)の「草原文献リスト」のボタンから入れます。

一層の充実を目指しますので、未掲載の文献がありましたら、事務局まで連絡をお願いします。

### 【会員紹介のお願い】

全国の草原の状況や再生活動を情報交換するために、より多くの方の加入を目指しています。知り合いの方で草原の保全や再生に興味のある方がいらっしゃいましたら、ネットワークへの加入をおすすめ下さい。

### 【全国草原サミット・シンポジウムの報告書】

2009年秋、広島県北広島町で開催された「全国草原サミット・シンポジウム」の報告書ができました。入手希望の方はホームページからPDFファイルをダウンロード下さい。

<連絡先><http://shizenkan.info/>

芸北高原の自然館 tel & fax: 0826-36-2008

## 全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.3 2010年7月号

全国草原再生ネットワーク事務局

694-0064 島根県大田市大田町大田イ376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 電話:0854-82-2727 FAX 0854-84-0262

【編集後記】学会での草原への注目度について、今回のニュースレターで報告を予定していましたが、時間の都合で準備ができませんでした。お許し下さい。次号以降で報告をさせていただきます。